



# Sun™ Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun SPARC® Enterprise T5140/T5240 サーバ

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 821-0349-10  
2009 年 7 月、Revision A

このマニュアルに関するご意見をお寄せいただく場合は、次の Web ページでフィードバックリンク [+] をクリックしてください。  
<http://docs.sun.com>

富士通株式会社は、本製品の一部に対して技術提供および調査を行いました。

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して米国 Sun Microsystems 社および富士通株式会社は、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社およびサン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものではありません。本書は、富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または米国 Sun Microsystems 社へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または米国 Sun Microsystems 社にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun, Sun Microsystems, Java, Netra, Sun StorageTek, docs.sun.com, OpenBoot, SunVTS, Sun Fire, SunSolve, CoolThreads, J2EE は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. 社および富士通株式会社が米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

SSH は、米国およびその他の特定の管轄区域における SSH Communications Security 社の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項: 本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとし、このような契約で明示的に規定されていない限り、富士通株式会社、米国 Sun Microsystems 社、またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のものも第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとし、



Please  
Recycle



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに vii

**Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ用 ILOM について 1**

ILOM の概要 1

プラットフォーム固有の ILOM 機能 2

サポートされていない ILOM 機能 3

ホストの管理 5

ホストのリセット 6

ホストの起動モードの管理 6

起動モードの概要 7

- ▼ ホストの起動モードの LDom 構成の管理 (CLI) 7
- ▼ ホストのリセット時の起動モードの動作の変更 (CLI) 8
- ▼ ホストの起動モードのスクリプトの管理 (CLI) 9
- ▼ ホストの起動モードの有効期限の表示 (CLI) 9
- ▼ 起動モードの設定の変更または構成 (Web インタフェース) 10

ホストの制御情報の表示および構成 11

- ▼ ホストの MAC アドレスの表示 (CLI) 11
- ▼ ホストの OpenBoot のバージョンの表示 (CLI) 12
- ▼ ホストの POST のバージョンの表示 (CLI) 12
- ▼ ホストがリセットされたときのホストの動作の指定 (CLI) 12
- ▼ ホストが動作を停止したときのホストの動作の指定 (CLI) 13

## 自動再起動の管理 14

- ▼ 起動タイムアウトの間隔の設定 14
- ▼ 起動タイムアウト時のシステムの動作の指定 14
- ▼ 再起動に失敗した場合のシステムの動作の指定 15
- ▼ 再起動の最大再試行回数の指定 15
- ▼ ホストの制御情報の表示および構成 (Web インタフェース) 16

## システムユーザーの対話の管理 18

- ▼ ブレーク信号の送信または強制的なコアダンプの実行の有効化 (CLI) 18
- ▼ ホストの状態情報の表示 (CLI) 19

## サービスプロセッサの管理 21

### 顧客情報の格納 22

- ▼ 顧客の FRU データの変更 (CLI) 22
- ▼ システム識別情報の変更 (CLI) 22
- ▼ 顧客の識別情報の変更 (Web インタフェース) 23
- ▼ コンソール履歴の表示 (CLI) 24
- ▼ コンソールのエスケープ文字の変更 (CLI) 25

### 構成ポリシーの設定の変更 25

- ▼ ユーザーデータベースのバックアップの指定 (CLI) 26
- ▼ 再起動時のホスト電源状態の復元 (CLI) 26
- ▼ 再起動時のホスト電源状態の指定 (CLI) 27
- ▼ 電源投入の遅延の無効化または再有効化 (CLI) 28
- ▼ 構成ポリシーの設定の管理 (Web インタフェース) 28

### ネットワークアクセスの管理 29

- ▼ SP へのネットワークアクセスの無効化または再有効化 (CLI) 30
- ▼ DHCP サーバの IP アドレスの表示 (CLI) 30

### SCC に格納される ILOM 情報 31

## デバイスの管理 33

- ▼ 仮想キースイッチによるホストの動作の指定 33
- ▼ 仮想キースイッチによるホストの動作の指定 (Web インタフェース) 34

## IPMI センサーとインジケータの検出 35

Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー 36

Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのインジケータ 40

## ALOM の互換性情報の検出 41

ALOM CMT 互換シェル 41

ILOM と ALOM CMT の間の大きな違い 42

ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加 42

- ▼ ネットワーク構成プロパティの変更を確定する 42
- ▼ シリアルポート構成プロパティの変更の確定 43
- ▼ ALOM CMT 互換シェルの作成 43

ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較 46

ALOM CMT 変数の比較 54

ALOM 互換シェルから使用可能なイベントメッセージ 55

イベントメッセージの概要 55

イベントの重要度レベル 56

サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ 57

環境監視イベントメッセージ 60

ホスト監視イベントメッセージ 63

## 索引 65



# はじめに

---

このマニュアルでは、Sun SPARC® Enterprise T5140 および T5240 サーバに対して、Integrated Lights Out Manager (ILOM) のサービスプロセッサ (Service Processor, SP) に関する情報を提供します。SP を使用すると、サーバの遠隔管理を可能にします。システム管理者には、UNIX® のコマンドに関する知識が必要です。

---

## UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。

これらについては、次のいずれかを参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル  
(<http://docs.sun.com>)

---

# シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	<i>machine_name%</i>
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
ILOM サービスプロセッサ	->
ALOM 互換シェル	sc>
OpenBoot™ PROM ファームウェア	ok

---

---

## 関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t5140>

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t5240>

用途	タイトル	Part No.	場所
最新情報	『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバ プロダクトノート』	820-4246	出荷用キット オンライン
概要	『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバ 製品概要』	820-4239	オンライン
設置準備	『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバ 設置計画マニュアル』	820-4149	オンライン
設置	『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバ インストールレーションガイド』	820-4151	オンライン
管理	『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバ アドミニストレーションガイド』	820-4224	オンライン
サービス	『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバ サービスマニュアル』	820-4232	オンライン
安全	『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバ 安全に使用していただくために』	820-3319	オンライン

---



ILOM の管理対象であるすべてのプラットフォームに共通する ILOM の機能に関する操作方法の詳細は、次のマニュアルに掲載されています。

タスク	タイトル	Part No.	場所
概念情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』	820-7370	オンライン
ブラウザインタフェース情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』	820-7373	オンライン
CLI 手順情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』	820-7376	オンライン
SNMP および IPMI 情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』	820-7379	オンライン
インストールおよび取り付け情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』	820-7382	オンライン

使用しているホストサーバの使用方法の詳細は、次のマニュアルを参照してください。

タスク	タイトル
診断テストの実行方法	『SunVTS ユーザーズガイド』
	『SunVTS Quick Reference Guide』
	『SunVTS Test Reference Manual』
	『Sun Management Center Software User's Guide』
システムおよびネットワーク管理	『Solaris System Administrator Guide』
	『SPARC: Installing Solaris Software』
オペレーティングシステムの使用方法	『Solaris User's Guide』

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun Web サイトでは、次の追加リソースについて説明しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

---

## Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

---

## コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

(<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>)

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun SPARC T5140/T5240 サーバ』、Part No. 821-0349-10。

# Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ用 ILOM について

---

この章では、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ用の ILOM について説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- 1 ページの「ILOM の概要」
- 2 ページの「プラットフォーム固有の ILOM 機能」
- 3 ページの「サポートされていない ILOM 機能」

---

## ILOM の概要

Integrated Lights Out Manager (ILOM) はシステム管理ファームウェアで、一部の SPARC サーバにプリインストールされています。ILOM を使用すると、サーバにインストールされたコンポーネントをアクティブに管理および監視できます。ILOM には、SNMP や IPMI のインタフェースのほかに、ブラウザベースのインタフェースやコマンド行インタフェースがあります。ILOM の全般的な情報については、『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』を参照してください。

---

注 – サービスプロセッサ上での ILOM のアップグレード、インストール、構成の詳細は、『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバインストールガイド』およびサーバのプロダクトノートを参照してください。

---

ILOM の管理対象であるすべてのプラットフォームに共通する ILOM の機能に関する操作方法の詳細は、次のサイトからマニュアルを参照してください。

(<http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic?l=ja>)

タスク	タイトル	Part No.	場所
コンセプト情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』	820-7370	オンライン
ブラウザーインターフェイス情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』	820-7373	オンライン
CLI 手順情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』	820-7376	オンライン
SNMP および IPMI に関する情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』	820-7379	オンライン
インストールおよび設定についての情報	『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』	820-7382	オンライン

#### 関連情報

- [2 ページの「プラットフォーム固有の ILOM 機能」](#)
- [3 ページの「サポートされていない ILOM 機能」](#)

## プラットフォーム固有の ILOM 機能

ILOM は多くのプラットフォーム上で動作し、すべてのプラットフォームに共通する機能をサポートしています。ILOM 機能の中には、すべてのプラットフォームではなく一部のプラットフォームでのみ使用できるものがあります。このマニュアルでは、Integrated Lights Out Manager 3.0 の基本マニュアルで説明されている一連の機能を補足する、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ用の機能について説明します。

**注** – Integrated Lights Out Manager 3.0 の基本マニュアルに掲載されているいくつかの手順を実行するには、サーバとのシリアル接続を確立し、サーバ上の Physical Presence スイッチを使用可能にする必要があります。Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 上の Physical Presence スイッチは、ロケータボタンとして実装されています。サーバとのシリアル接続の詳細は、『Sun SPARC Enterprise T5140/T5240 サーバアドミニストレーションガイド』を参照してください。

#### 関連情報

- [1 ページの「ILOM の概要」](#)
- [3 ページの「サポートされていない ILOM 機能」](#)

---

# サポートされていない ILOM 機能

ほかのプラットフォームでサポートされている ILOM 機能の中で、次の機能は Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバの ILOM ではサポートされていません。

- ILOM リモートコンソールの KVMs 機能。ただし、ILOM リモートコンソールは、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバに対するリモートシリアルコンソールを提供します。
- シングルサインオンなどの、シャーシ監視モジュール (CMM) 機能
- 最大 10 の並行ユーザーセッション。Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバでは、最大 5 つの並行ユーザーセッションをサポートしています。

## 関連情報

- [1 ページの「ILOM の概要」](#)
- [2 ページの「プラットフォーム固有の ILOM 機能」](#)



# ホストの管理

---

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ用の ILOM 機能について説明します。この章では、特に /HOST 名前空間のプロパティについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

説明	リンク
ホストのリセット	6 ページの「ホストのリセット」
ホストの起動モードの管理	7 ページの「起動モードの概要」 7 ページの「ホストの起動モードの LDom 構成の管理 (CLI)」 8 ページの「ホストのリセット時の起動モードの動作の変更 (CLI)」 9 ページの「ホストの起動モードのスクリプトの管理 (CLI)」 9 ページの「ホストの起動モードの有効期限の表示 (CLI)」 10 ページの「起動モードの設定の変更または構成 (Web インタフェース)」
ホストの制御情報の表示および構成	11 ページの「ホストの MAC アドレスの表示 (CLI)」 12 ページの「ホストの OpenBoot のバージョンの表示 (CLI)」 12 ページの「ホストの POST のバージョンの表示 (CLI)」 13 ページの「ホストが動作を停止したときのホストの動作の指定 (CLI)」 12 ページの「ホストがリセットされたときのホストの動作の指定 (CLI)」 12 ページの「ホストがリセットされたときのホストの動作の指定 (CLI)」 16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 (Web インタフェース)」
システムユーザーの対話の管理	18 ページの「ブレイク信号の送信または強制的なコアダンプの実行の有効化 (CLI)」 19 ページの「ホストの状態情報の表示 (CLI)」

---

---

## ホストのリセット

reset コマンドでは、ホストサーバのハードウェアリセットが正常にまたは強制的に行われます。デフォルトでは、reset コマンドはホストを正常にリセットします。ILOM から正常なりセットを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
-> reset /SYS
```

正常なりセットが実行できない場合は、強制的なりセットが実行されます。ILOM から強制的なハードウェアリセットを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
-> reset -force /SYS
```

ILOM CLI と ALOM 互換 CLI の reset コマンドで使用できるオプションのリストは、[表 3](#) を参照してください。

### 関連情報

- [46 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)

---

## ホストの起動モードの管理

起動モードのプロパティを使用すると、ILOM が起動を処理する方法を指定できます。

- [7 ページの「起動モードの概要」](#)
- [7 ページの「ホストの起動モードの LDoms 構成の管理 \(CLI\)」](#)
- [9 ページの「ホストの起動モードのスキプトの管理 \(CLI\)」](#)
- [8 ページの「ホストのリセット時の起動モードの動作の変更 \(CLI\)」](#)
- [9 ページの「ホストの起動モードの有効期限の表示 \(CLI\)」](#)
- [10 ページの「起動モードの設定の変更または構成 \(Web インタフェース\)」](#)



## 起動モードの概要

起動モード (bootmode) プロパティを使用すると、サーバが起動時に使用するデフォルトの方法を上書きできます。この機能は、スクリプトまたは類似のタスクを使用して OpenBoot 変数を設定することで、適切ではない可能性がある特定の OpenBoot 設定または LDom 設定を上書きする場合に便利です。

たとえば、OpenBoot 設定が破損した場合に、bootmode state プロパティを reset\_nvram に設定して、サーバを出荷時のデフォルトの OpenBoot 設定にリセットすることができます。

保守作業員から、問題の解決に bootmode script プロパティを使用するように指示される場合があります。完全なスクリプトには、主にデバッグ用に用意されている、マニュアルには記載されていない機能があります。

bootmode は、OpenBoot 設定または LDom 設定に関する問題を修正するために使用されることを目的としているため、bootmode はシングルブートでのみ有効です。また、管理者が bootmode state プロパティを設定したまま忘れることを防止するため、bootmode state プロパティが設定されてから 10 分以内にホストがリセットされないと、bootmode state プロパティが期限切れになります。

### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [6 ページの「ホストの起動モードの管理」](#)

## ▼ ホストの起動モードの LDom 構成の管理 (CLI)

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/bootmode config=configname
```

config プロパティには、Logical Domains ソフトウェアを使用して SP にダウンロードされた名前付き論理ドメイン構成などの configname 値を指定します。

たとえば、ldm-set1 という名前の論理ドメイン構成を作成した場合は、次のように指定します。

```
-> set bootmode config=ldm-set1
```

起動モードの config を出荷時のデフォルト構成に戻すには、factory-default を指定します。

例：

```
-> set bootmode config=factory-default
```

---

注 – /HOST/bootmode config="" を設定すると、ILOM は config の値を空に設定します。

---

#### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [10 ページの「起動モードの設定の変更または構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストのリセット時の起動モードの動作の変更 (CLI)

/HOST/bootmode state プロパティは、OpenBoot の非揮発性ランダムアクセスメモリー (NVRAM) 変数の使用方法を制御します。通常、これらの変数の現在の設定が保持されます。/HOST/bootmode を state=reset\_nvram に設定すると、次のリセット時に OpenBoot NVRAM 変数がデフォルト設定に変更されます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/bootmode state=value
```

*value* は、次のいずれかの値です。

- normal – 次のリセット時に、現在の NVRAM 変数の設定を維持します。
- reset\_nvram – 次のリセット時に、OpenBoot 変数をデフォルト設定に戻します。

---

注 – 次にサーバをリセットしたあと、または 10 分後 ([9 ページの「ホストの起動モードの有効期限の表示 \(CLI\)」](#) の expires プロパティを参照) に、state=reset\_nvram は normal に戻ります。config プロパティおよび script プロパティが期限切れになることはなく、次にサーバをリセットしたとき、または手動で *value* を "" に設定したときにクリアされます。

---

#### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [10 ページの「起動モードの設定の変更または構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストの起動モードのスキプットの管理 (CLI)

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /HOST/bootmode script=value
```

この場合、`script` は、ホストサーバの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。このスクリプトは現在の `/HOST/bootmode` 設定には影響を与えません。`value` には、最大 64 バイトの長さの文字列を指定できます。

`/HOST/bootmode` 設定を指定して、同じコマンド内でスクリプトを設定できます。

例：

```
-> set /HOST/bootmode state=reset_nvram script="setenv diag-switch? true"
```

サーバをリセットしたあとに OpenBoot PROM がスクリプトに格納されている値を読み取ると、OpenBoot PROM は OpenBoot PROM 変数 `diag-switch?` を、ユーザーが要求した値 `true` に設定します。

---

注 - `/HOST/bootmode script=""` を設定すると、ILOM は `script` の値を空に設定します。

---

### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [10 ページの「起動モードの設定の変更または構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストの起動モードの有効期限の表示 (CLI)

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> show /HOST/bootmode expires
Properties:
  expires = Thu Oct 16 18:24:16 2008
```

この場合、`expires` は現在の起動モードが期限切れになる日時です。

### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [10 ページの「起動モードの設定の変更または構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 起動モードの設定の変更または構成 (Web インタフェース)

The screenshot shows the ILOM web interface. At the top, there is a navigation bar with 'ABOUT', 'REFRESH', and 'LOG OUT'. Below this, the user information is displayed: 'User: root Role: auro SP Hostname: SUNSP00144F971F11'. The main title is 'Integrated Lights Out Manager'. A menu bar contains 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Under 'Remote Control', there are sub-menus: 'Redirection', 'Remote Power Control', 'Diagnostics', 'Host Control', 'Host Boot Mode', and 'Keyswitch'. The 'Host Boot Mode Settings' page is active, showing a form with the following fields: 'State' (a dropdown menu set to 'Normal'), 'Expiration Date' (displayed as '{none}'), 'Script' (an empty text input field), and 'LDOM Config' (an empty text input field). A 'Save' button is located at the bottom left of the form.

ILOM の Web インタフェースを使用して、起動モード制御に関する 4 つの要素を表示または構成できます。

- 状態
- 有効期限
- スクリプト
- LDom 構成

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Remote Control」->「Boot Mode Settings」を選択します。
3. 必要に応じて、「Boot Mode」の「State」を選択します。
4. 「Expiration Date」が表示されます。
5. 必要に応じて、起動スクリプトを指定します。
6. 必要に応じて、LDoms 構成ファイルを指定します。
7. 「Save」をクリックします。

## 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [6 ページの「ホストの起動モードの管理」](#)

---

# ホストの制御情報の表示および構成

システム構成およびファームウェアのバージョン情報を表示するには、ホスト情報プロパティを使用します。

- [11 ページの「ホストの MAC アドレスの表示 \(CLI\)」](#)
- [12 ページの「ホストの OpenBoot のバージョンの表示 \(CLI\)」](#)
- [12 ページの「ホストの POST のバージョンの表示 \(CLI\)」](#)
- [13 ページの「ホストが動作を停止したときのホストの動作の指定 \(CLI\)」](#)
- [12 ページの「ホストがリセットされたときのホストの動作の指定 \(CLI\)」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストの MAC アドレスの表示 (CLI)

/HOST macaddress プロパティは、システムソフトウェアによって自動的に構成されるため、設定または変更はできません。値はサーバの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) から読み取られて識別され、ILOM にプロパティとして格納されます。

/HOST macaddress は、net0 port の MAC アドレスです。各追加ポートの MAC アドレスは、/HOST macaddress から増分されます。たとえば、net1 は /HOST macaddress に 1 を追加した値と同じです。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST macaddress
```

## 関連情報

- [11 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストの OpenBoot のバージョンの表示 (CLI)

/HOST obp\_version プロパティを使用すると、ホストの OpenBoot のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST obp_version
```

### 関連情報

- [11 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストの POST のバージョンの表示 (CLI)

/HOST post\_version プロパティを使用すると、ホストの POST のバージョンに関する情報が表示されます。

- このプロパティの現在の設定を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
-> show /HOST post_version
```

### 関連情報

- [11 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストがリセットされたときのホストの動作の指定 (CLI)

/HOST autorunonerror プロパティを使用すると、エラーから回復する目的でホストソフトウェアが power-on-reset を実行したあと、システムがホストに対して powercycle を実行するかどうかを指定できます。ホストに対して powercycle を実行したあと、システムは /HOST/diag trigger プロパティの値をチェックし、POST を実行するかどうかを決定します。

- 次のプロパティを設定します。

```
-> set /HOST autorunonerror=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- `false` – ホストがリセットされたあと、SP はホストの電源を切断します (デフォルト)。
- `true` – ホストがリセットされたあと、SP はホストに対して `powercycle` を実行します。

#### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [11 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストが動作を停止したときのホストの動作の指定 (CLI)

`/HOST autorestart` プロパティを使用すると、(ウォッチドッグタイマーが期限切れになった時点で) ホストが `RUNNING` 状態にとどまっているときに ILOM が何を実行するかを指定できます。

- 次のプロパティを設定します。

```
-> set /HOST autorestart=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- `none` – ILOM は、警告を発行する以外、何の処理も行いません。
- `reset` – ILOM は、Solaris ウォッチドッグタイマーが期限切れになると、システムのリセットを試みます (デフォルト)。
- `dumpcore` – ILOM は、ウォッチドッグタイマーが期限切れになると、OS のコアダンプを強制的に試みます。

#### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [11 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## 自動再起動の管理

次のタスクを使用すると、自動再起動機能を管理できます。

- [14 ページの「起動タイムアウトの間隔の設定」](#)
- [14 ページの「起動タイムアウト時のシステムの動作の指定」](#)
- [15 ページの「再起動に失敗した場合のシステムの動作の指定」](#)
- [15 ページの「再起動の最大再試行回数の指定」](#)

### ▼ 起動タイムアウトの間隔の設定

- ホスト再起動の要求から、ホスト再起動までの遅延時間を設定します。

```
->set /HOST boottimeout=seconds
```

`boottimeout` のデフォルト値は 0 (ゼロ秒)、言い換えるとタイムアウトなしです。設定できる値は、0 ~ 36000 秒の範囲です。

#### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [14 ページの「自動再起動の管理」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

### ▼ 起動タイムアウト時のシステムの動作の指定

- `boottimeout` が完了したときのシステムの動作を指定します。

```
-> set /HOST bootrestart=value
```

`value` には、次の値を設定できます。

- `none` (デフォルト)
- `reset`

#### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [14 ページの「自動再起動の管理」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)



## ▼ 再起動に失敗した場合のシステムの動作の指定

- 次のように入力します。

```
->set /HOST bootfailrecovery=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- powercycle
- poweroff (デフォルト)

ホストが Solaris の実行状態に到達するのに失敗した場合に、このアクションが実施されます。

### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [14 ページの「自動再起動の管理」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 再起動の最大再試行回数の指定

- 次のように入力します。

```
-> set /HOST maxbootfail=attempts
```

maxbootfail のデフォルト値は 3 (3 回の再試行) です。

maxbootfail によって指定された再試行回数のうちにホストが正常に起動しない場合は、ホストは電源を切断されるか、powercycle を実行されます (bootfailrecovery の設定によって異なります)。どちらの場合でも、boottimeout を 0 (ゼロ秒) に設定すると、それ以上のホスト再起動の試行は無効になります。

### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [14 ページの「自動再起動の管理」](#)
- [16 ページの「ホストの制御情報の表示および構成 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ホストの制御情報の表示および構成 (Web インタフェース)

この手順では、さまざまな種類のホスト情報を表示および構成する方法について説明します。



### Host Control

View and configure the host control information. Auto Run on Error determines whether the host should continue to boot in the event of a non-fatal POST error. Auto Restart Policy determines what action the Service Processor should take when it discovers the host is hung. Boot Timeout defines the time out value for boot timer (0 will disable the timer). Boot Restart Policy defines boot timer restart action. Max Boot Fails Allowed defines the number of max boot fails allowed. Boot Fail Recovery defines the timer action upon reaching max boot fails.

MAC Address: 00:14:4f:97:1f:08  
Hypervisor Version: Hypervisor 1.7.2.a 2009/05/05 19:32  
OBP Version: OBP 4.30.2.b 2009/06/16 07:02  
POST Version: POST 4.30.2 2009/04/21 09:53  
SysFW Version: Sun System Firmware 7.2.2.e 2009/06/19 10:22  
Host Status: Powered off  
Auto Run On Error:   
Auto Restart Policy:   
Boot Timeout:   
Boot Restart Policy:   
Max Boot Fails Allowed:   
Boot Fail Recovery:

ILOM を使用すると、いくつかのホスト制御機能を表示または構成できます。ホスト制御には、次の 6 つの要素があります。

- MAC アドレス
- Hypervisor のバージョン
- OpenBoot のバージョン
- POST のバージョン
- システムファームウェアのバージョン

- HOST 状態
  - エラー時の自動実行
  - 自動再起動ポリシー
  - 起動タイムアウト
  - 起動再起動ポリシー
  - 起動失敗の最大許容回数
  - 起動失敗の回復
1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
  2. 「Remote Control」 -> 「Host Control」を選択します。
  3. MAC アドレスが表示されます。
  4. Hypervisor のバージョンが表示されます。
  5. OpenBoot のバージョンが表示されます。
  6. POST のバージョンが表示されます。
  7. システムハードウェアのバージョンが表示されます。
  8. ホストの状態が表示されます。
  9. 必要に応じて、「Auto Run On Error」の値を選択します。
  10. 必要に応じて、「Auto Restart Policy」の値を選択します。
  11. 必要に応じて、「Boot Timeout」の値を選択します。
  12. 必要に応じて、「Boot Restart Policy」の値を選択します。
  13. 必要に応じて、「Maximum Boot Failures Allowed」の値を選択します。
  14. 必要に応じて、「Boot Failure Recovery」の値を選択します。
  15. 「Save」をクリックします。

#### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)
- [11 ページの「ホストの制御情報の表示および構成」](#)

---

## システムユーザーの対話の管理

システムユーザープロパティを使用すると、ILOM によるホストサーバの識別方法およびホストサーバとの対話方法をカスタマイズできます。

- 18 ページの「ブレーク信号の送信または強制的なコアダンプの実行の有効化 (CLI)」
- 19 ページの「ホストの状態情報の表示 (CLI)」

### ▼ ブレーク信号の送信または強制的なコアダンプの実行の有効化 (CLI)

`set /HOST send_break_action` コマンドを使用すると、OpenBoot PROM プロンプト (ok) に進むことを選択できるメニューがサーバで表示されます。kmdb デバッガを設定している場合は、`send_break_action=break` コマンドを指定すると、サーバはデバッグモードになります。

強制的なコアダンプを実行するには、`send_break_action=dumpcore` を指定します。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set send_break_action=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- `break` - ホストにブレークを送信します。
- `dumpcore` - 管理対象のシステム OS のパニックコアダンプを強制的に行います (すべてのバージョンの OS でサポートされているとはかぎらない)。

#### 関連情報

- 19 ページの「ホストの状態情報の表示 (CLI)」

## ▼ ホストの状態情報の表示 (CLI)

show /HOST status command コマンドを使用すると、ホストサーバのプラットフォーム ID および状態に関する情報を表示できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> show /HOST status
```

例：

```
-> show /HOST status
/HOST
Properties:
    status = Solaris running

Commands:
    cd
    set
    show
->
```

### 関連情報

- [18 ページの「ブレーク信号の送信または強制的なコアダンプの実行の有効化 \(CLI\)」](#)



# サービスパロセッサの管理

---

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ用の ILOM プロパティについて説明します。この章では、特に /SP 名前空間のプロパティについて説明します。この章は、次の節で構成されています。

---

説明	リンク
顧客情報の格納	<a href="#">22 ページの「顧客の FRU データの変更 (CLI)」</a> <a href="#">22 ページの「システム識別情報の変更 (CLI)」</a> <a href="#">23 ページの「顧客の識別情報の変更 (Web インタフェース)」</a>
コンソール履歴の表示	<a href="#">24 ページの「コンソール履歴の表示 (CLI)」</a>
コンソールのエスケープ文字の変更	<a href="#">25 ページの「コンソールのエスケープ文字の変更 (CLI)」</a>
構成ポリシーの設定の変更	<a href="#">26 ページの「ユーザーデータベースのバックアップの指定 (CLI)」</a> <a href="#">26 ページの「再起動時のホスト電源状態の復元 (CLI)」</a> <a href="#">27 ページの「再起動時のホスト電源状態の指定 (CLI)」</a> <a href="#">28 ページの「電源投入の遅延の無効化または再有効化 (CLI)」</a> <a href="#">28 ページの「構成ポリシーの設定の管理 (Web インタフェース)」</a>
ネットワークアクセスの管理	<a href="#">30 ページの「SP へのネットワークアクセスの無効化または再有効化 (CLI)」</a> <a href="#">30 ページの「DHCP サーバの IP アドレスの表示 (CLI)」</a>

---

---

## 顧客情報の格納

この節では、インベントリ制御またはサイトの資源管理などを目的として、SP および FRU PROM に情報を格納できる ILOM 機能について説明します。

- [22 ページの「顧客の FRU データの変更 \(CLI\)」](#)
- [22 ページの「システム識別情報の変更 \(CLI\)」](#)
- [23 ページの「顧客の識別情報の変更 \(Web インタフェース\)」](#)

### ▼ 顧客の FRU データの変更 (CLI)

/SP customer\_fru<sub>data</sub> プロパティを使用すると、すべての FRU PROM に情報を格納できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP customer_frudata="data"
```

---

注 - データ文字列 (*data*) は、引用符で囲む必要があります。

---

#### 関連情報

- [22 ページの「システム識別情報の変更 \(CLI\)」](#)
- [23 ページの「顧客の識別情報の変更 \(Web インタフェース\)」](#)

### ▼ システム識別情報の変更 (CLI)

/SP system<sub>identifier</sub> プロパティを使用すると、顧客の識別情報を格納できます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP systemidentifier="data"
```

---

注 - データ文字列 (*data*) は、引用符で囲む必要があります。

---



## 関連情報

- 22 ページの「顧客の FRU データの変更 (CLI)」
- 23 ページの「顧客の識別情報の変更 (Web インタフェース)」

## ▼ 顧客の識別情報の変更 (Web インタフェース)

The screenshot shows the ILOM web interface. At the top, there is a header with 'ABOUT' on the left and 'REFRESH' and 'LOG OUT' on the right. Below the header, the user information is displayed: 'User: root Role: auroc SP Hostname: SUNSP00144F971F11'. The main title is 'Integrated Lights Out Manager'. A navigation bar contains several tabs: 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Underneath, a sub-navigation bar has tabs for 'Versions', 'Session Time-Out', 'Components', 'Fault Management', and 'Identification Information'. The 'Identification Information' tab is selected, and the page title is 'Identification Information'. A descriptive text states: 'Configure identification information. The setting for Physical Presence Check indicates whether a button press will be required for security related actions such as password recovery.' Below this, there are several input fields: 'Customer FRU Data' (empty), 'SP Hostname' (filled with 'SUNSP00144F971F11'), 'SP System Identifier' (empty), 'SP System Contact' (empty), and 'SP System Location' (empty). The 'SP System Description' is pre-filled with 'SPARC-Enterprise-T5220, ILOM v3.0.3.20.e, r46064'. There is a checkbox for 'Physical Presence Check' which is currently unchecked. At the bottom left, there is a 'Save' button.

ILOM は、FRU および SP に情報を格納できる機能を備えています。

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「System Information」->「Identification Information」を選択します。
3. 必要に応じて、「Customer FRU Data」フィールドを編集します。
4. 必要に応じて、「SP Hostname」を編集します。
5. 必要に応じて、「SP System Identifier」フィールドを編集します。
6. 必要に応じて、「SP System Contact」フィールドを編集します。
7. 必要に応じて、「SP System Location」フィールドを編集します。
8. 「SP System Description」が表示されます。
9. 「Save」をクリックします。

## 関連情報

- 22 ページの「顧客の FRU データの変更 (CLI)」
- 22 ページの「システム識別情報の変更 (CLI)」

# ▼ コンソール履歴の表示 (CLI)

この節では、ホストサーバコンソールの出力バッファーを表示する方法について説明します。

コンソールバッファーには、最大で 1M バイトの情報を含めることができます。ILOM はホストサーバのリセットを認識すると、Solaris OS が起動および動作中であることがサーバによって通知されるまで、コンソールバッファーに起動情報および初期化データを書き込みます。

---

**注** – このコマンドを使用するには、Administrator レベルのユーザーアクセス権が必要です。

---

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/console/history property=option[...]  
-> show /SP/console/history
```

*property* には、次の値を指定できます。

- *line\_count* – このオプションでは、1 ~ 2048 行の範囲の値を受け入れます。行数を無制限にするには、"" を指定します。デフォルトは、すべての行です。
- *pause\_count* – このオプションでは、1 ~ 任意の有効な整数の値か、または無限の行数を意味する "" を受け入れます。デフォルトでは、一時停止しません。
- *start\_from* – オプションは次のとおりです。
  - *end* – バッファー内の最後の行、つまり最新の行 (デフォルト)。
  - *beginning* – バッファー内の最初の行。

set コマンドで引数を何も設定せずに show /SP/console/history コマンドを入力すると、ILOM はコンソールログの最後からすべての行を表示します。

---

**注** – コンソールログに記録されるタイムスタンプには、サーバの時刻が反映されています。これらのタイムスタンプには現地時刻が反映されており、ILOM のコンソールログでは協定世界時 (UTC) が使用されます。Solaris OS のシステム時刻は ILOM の時刻から独立しています。

---

### 関連情報

- [25 ページの「コンソールのエスケープ文字の変更 \(CLI\)」](#)

## ▼ コンソールのエスケープ文字の変更 (CLI)

/SP/console escapechars プロパティを使用すると、システムコンソールセッションから ILOM に切り替えるエスケープ文字シーケンスを変更することができます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/console escapechars=xx
```

xx は、任意のプリント可能な文字です。

シーケンスは、2 文字に制限されています。デフォルトの値は、#. (ハッシュとピリオド) です。このシーケンス (文字列) はカスタマイズ可能です。

---

注 – エスケープ文字の変更は、現在アクティブなコンソールセッションでは有効になりません。

---

### 関連情報

- [6 ページの「ホストのリセット」](#)

---

## 構成ポリシーの設定の変更

この節では、ILOM を使用する構成システムポリシーの管理について説明します。

- [26 ページの「ユーザーデータベースのバックアップの指定 \(CLI\)」](#)
- [26 ページの「再起動時のホスト電源状態の復元 \(CLI\)」](#)
- [27 ページの「再起動時のホスト電源状態の指定 \(CLI\)」](#)
- [28 ページの「電源投入の遅延の無効化または再有効化 \(CLI\)」](#)
- [28 ページの「構成ポリシーの設定の管理 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ ユーザーデータベースのバックアップの指定 (CLI)

/SP/policy BACKUP\_USER\_DATA プロパティを使用すると、ILOM 上のローカルユーザーデータベース (ユーザー名、役割、パスワード、および CLI モード情報) をバックアップするかどうかを指定できます。このプロパティが `enabled` に設定されている場合は、このデータはシステムの取り外し可能なシステム構成カード (SCC PROM) にバックアップされます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- `enabled` - ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。これはデフォルト値です。
- `disabled` - バックアップしません。  
たとえば、ILOM 上のローカルユーザーデータベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
-> set /SP/policy BACKUP_USER_DATA=enabled
```

### 関連情報

- [31 ページの「SCC に格納される ILOM 情報」](#)
- [28 ページの「構成ポリシーの設定の管理 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 再起動時のホスト電源状態の復元 (CLI)

/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティを使用すると、予期しない電源異常のあとのサーバの動作を制御することができます。外部電源が回復すると、ILOM サービスプロセッサは自動的に動作を開始します。通常は、ILOM を使用して電源を入れないかぎり、ホストの電源は入りません。

ILOM は、サーバの現在の電源状態を非揮発性の記憶領域に記録します。HOST\_LAST\_POWER\_STATE ポリシーが有効な場合、ILOM はホストを以前の電源状態に回復することができます。このポリシーは、電源障害発生時、またはサーバを別の場所に物理的に移動する場合に役立ちます。

たとえば、ホストサーバの動作中に電源が遮断された場合、/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティが `disabled` に設定されていると、ホストサーバは電源の回復後も停止したままになります。/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティが `enabled` に設定されていると、電源の回復時にホストサーバは再起動します。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- enabled - 電源の回復時に、サーバは電源切断前の状態に戻ります。
- disabled - 電源が供給されても、ホストの電源は切断されたままです (デフォルト)。

HOST\_LAST\_POWER\_STATE を有効にする場合は、/SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY も構成するようにしてください。詳細は、[28 ページの「電源投入の遅延の無効化または再有効化 \(CLI\)」](#)を参照してください。

#### 関連情報

- [28 ページの「電源投入の遅延の無効化または再有効化 \(CLI\)」](#)
- [27 ページの「再起動時のホスト電源状態の指定 \(CLI\)」](#)
- [28 ページの「構成ポリシーの設定の管理 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 再起動時のホスト電源状態の指定 (CLI)

/SP/policy HOST\_AUTO\_POWER\_ON を使用すると、サービスプロセッサが起動されたときに、ホストの電源が自動的に入ります。このポリシーが enabled に設定されていると、サービスプロセッサは HOST\_LAST\_POWER\_STATE を disabled に設定します。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_AUTO_POWER_ON=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- enabled - 電源が供給されると、SP の起動時にホストの電源が自動的に入ります。
- disabled - 電源が供給されても、ホストの電源は切断されたままです (デフォルト)。

#### 関連情報

- [26 ページの「再起動時のホスト電源状態の復元 \(CLI\)」](#)
- [28 ページの「電源投入の遅延の無効化または再有効化 \(CLI\)」](#)
- [28 ページの「構成ポリシーの設定の管理 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 電源投入の遅延の無効化または再有効化 (CLI)

/SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY プロパティを使用すると、電源が自動的に入る前にサーバを短時間待機させることができます。遅延は、1～5秒のランダムな間隔です。サーバの電源投入を遅延させると、主電源に対する電流サージを最小限に抑えることができます。この電源投入の遅延は、電源異常後にラック内の複数のサーバの電源を入れる場合に重要です。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- enabled
- disabled (デフォルト)

### 関連情報

- [27 ページの「再起動時のホスト電源状態の指定 \(CLI\)」](#)
- [26 ページの「再起動時のホスト電源状態の復元 \(CLI\)」](#)
- [28 ページの「構成ポリシーの設定の管理 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 構成ポリシーの設定の管理 (Web インタフェース)

ABOUT REFRESH LOG OUT

User: root Role: auroc SP Hostname: SUNSP00144F971F11

## Integrated Lights Out Manager

System Information	System Monitoring	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance				
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Serial Port	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client	Policy

### Policy Configuration

Configure system policies from this page. To modify a policy, select the radio button next to that policy, then choose Enable or Disable from the Action drop down list.

**Service Processor Policies**

— Actions —

Description	Status
<input type="radio"/> Auto power-on host on boot (enabling this policy disables Set host power to last power state policy)	Disabled
<input type="radio"/> Set host power to last power state on boot (enabling this policy disables Auto power-on host policy)	Disabled
<input type="radio"/> Set to delay host power on	Disabled
<input type="radio"/> Set to enable backing up of user account info to SCC card	Enabled

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Configuration」 -> 「Policy」 を選択します。
3. 「Actions」 の値を選択して、選択した処理 (「Enabled」 または 「Disabled」 ) を適用します。

#### 関連情報

- [27 ページの「再起動時のホスト電源状態の指定 \(CLI\)」](#)
- [26 ページの「再起動時のホスト電源状態の復元 \(CLI\)」](#)
- [28 ページの「電源投入の遅延の無効化または再有効化 \(CLI\)」](#)
- [26 ページの「ユーザーデータベースのバックアップの指定 \(CLI\)」](#)

## ネットワークアクセスの管理

この節では、ILOM を使用して SP へのネットワークアクセスを管理する方法について説明します。

- [30 ページの「SP へのネットワークアクセスの無効化または再有効化 \(CLI\)」](#)
- [30 ページの「DHCP サーバの IP アドレスの表示 \(CLI\)」](#)

## ▼ SP へのネットワークアクセスの無効化または再有効化 (CLI)

/SP/network state プロパティを使用すると、サービスプロセッサのネットワークインタフェースを使用可能または使用不可にすることができます。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/network state=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

- enabled (デフォルト)
- disabled

### 関連情報

- [30 ページの「DHCP サーバの IP アドレスの表示 \(CLI\)」](#)

## ▼ DHCP サーバの IP アドレスの表示 (CLI)

サービスプロセッサによって要求された動的 IP アドレスを提供した DHCP サーバの IP アドレスを表示するには、`dhcp_server_ip` プロパティを参照します。`dhcp_server_ip` プロパティを確認するには、次の手順を実行します。

- 次のように入力します。

```
->show /SP/network

/SP/network
  Targets:

  Properties:
    commitpending = (Cannot show property)
    dhcp_server_ip = 10.8.31.5
    ipaddress = 10.8.31.188
    ipdiscovery = dhcp
    ipgateway = 10.8.31.248
    ipnetmask = 255.255.252.0
    macaddress = 00:14:4F:7E:83:4F
    pendingipaddress = 10.8.31.188
    pendingipdiscovery = dhcp
    pendingipgateway = 10.8.31.248
    pendingipnetmask = 255.255.252.0
    state = enabled
```



```
Commands :
    cd
    set
    show
```

## SCC に格納される ILOM 情報

SPARC サーバは SCC (システム構成カード) に、ILOM 3.0 によってバックアップおよび復元される情報の一部を格納します。SP データの ILOM バックアップが存在しないサーバ障害が発生した場合は、交換用サーバに SCC を転送すると、障害が発生したサーバの構成データを部分的に復元できます。

---

注 – SCC 上にあるデータのバージョンは、SP 上で動作している SCC デーモンのバージョンと一致している必要があります。バージョンが異なっている場合は、SCC のバージョンは無視されます。SP のリセット後、SCC のデータは上書きされます。

---

表 1 SCC に格納される ILOM のプロパティ

プロパティ	ターゲット
/SP/users/username/	name password role cli_mode
/SP/network/	ipaddress ipdiscovery ipgateway ipnetmask state
/HOST/diag/	trigger level verbosity mode
/HOST/	autorunonerror autorestart
/SP/policy/	HOST_LAST_POWER_STATE HOST_POWER_ON_DELAY BACKUP_USER_DATA
/SP/services/ssh/state	該当なし

表 1 SCC に格納される ILOM のプロパティ (続き)

プロパティ	ターゲット
/SP/clients/smtp/	address port state
/SP/alertmgmt/rules/[1-15]/ (警告が電子メール警告である場合)	destination level type
/SP/system_identifier	該当なし
/SYS/keyswitch	該当なし

表 2 ALOM CMT の条件変数

変数
sc_clipasswecho
sc_cliprompt
sc_clitimeout
sc_clieventlevel
sc_escapechars

## 関連情報

- [26 ページの「ユーザーデータベースのバックアップの指定 \(CLI\)」](#)

# デバイスの管理

---

この章では、ほかのプラットフォーム上の ILOM に共通する一連のプロパティを補足する、Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバ用の ILOM プロパティについて説明します。この節では、特に /SYS 名前空間のプロパティについて説明します。

- [33 ページの「仮想キースイッチによるホストの動作の指定」](#)
- [34 ページの「仮想キースイッチによるホストの動作の指定 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 仮想キースイッチによるホストの動作の指定

仮想キースイッチの位置を制御するには、/SYS keyswitch\_state プロパティを使用します。

- -> プロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SYS keyswitch_state=value
```

*value* には、次の値を設定できます。

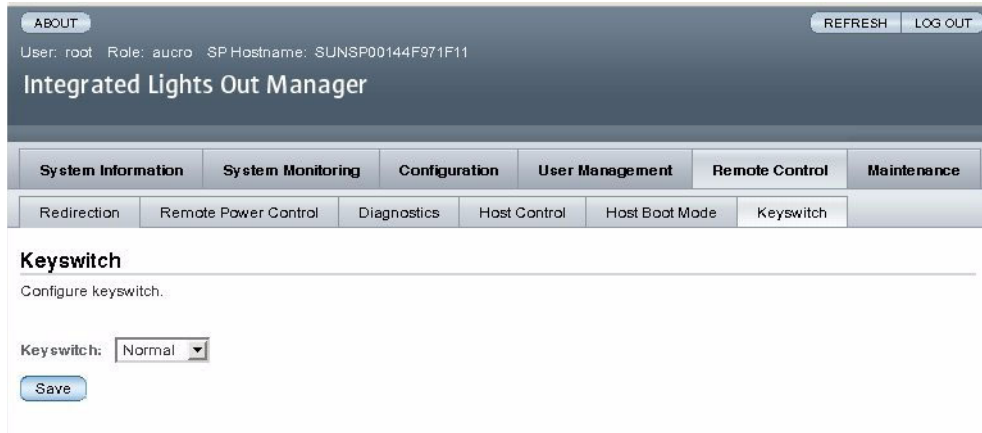
- **normal** – システムは、システム自体の電源を入れて、起動処理を開始できます (デフォルト)。
- **standby** – システムは、システム自体の電源を入れることができません。
- **diag** – システムは、診断プロパティの事前設定値 (/HOST/diag level=max, /HOST/diag mode=max, /HOST/diag verbosity=max) を使用してシステム自体の電源を入れ、全体の障害カバレッジを表示することができます。このオプションは、設定した診断プロパティの値よりも優先されます。
- **locked** – システムは、システム自体の電源を入れることができますが、フラッシュデバイスの更新、または /HOST send\_break\_action=break コマンドの使用は許可されません。

### 関連情報

- [34 ページの「仮想キースイッチによるホストの動作の指定 \(Web インタフェース\)」](#)

## ▼ 仮想キースイッチによるホストの動作の指定 (Web インタフェース)

Web インタフェースを使用して、システムの仮想キースイッチの位置を制御できます。



The screenshot shows the ILOM Web Interface. At the top, there is a header with 'ABOUT', 'User: root', 'Role: auro', 'SP Hostname: SUNSP00144F971F11', 'REFRESH', and 'LOG OUT'. Below the header is the title 'Integrated Lights Out Manager'. A navigation menu contains 'System Information', 'System Monitoring', 'Configuration', 'User Management', 'Remote Control', and 'Maintenance'. Under 'Remote Control', there is a sub-menu with 'Redirection', 'Remote Power Control', 'Diagnostics', 'Host Control', 'Host Boot Mode', and 'Keyswitch'. The 'Keyswitch' page is displayed, showing the text 'Configure keyswitch.' and a dropdown menu for 'Keyswitch:' with 'Normal' selected. A 'Save' button is located below the dropdown.

1. ILOM Web インタフェースに管理者 (root) としてログインし、Web インタフェースを表示します。
2. 「Remote Control」 -> 「Keyswitch」を選択します。
3. 「Keyswitch」の状態の値を選択します。
4. 「Save」をクリックします。

### 関連情報

- [33 ページの「仮想キースイッチによるホストの動作の指定」](#)

# IPMI センサーとインジケータの検出

---

このサーバには、IPMI に準拠した多数のセンサーとインジケータが装備されています。センサーは電圧と温度範囲を測定し、コンポーネントの取り付けまたは取り外しが行われたときにそのことを検出します。発光ダイオード (LED) のようなインジケータは、サービス (保守) が必要なときなど、サーバの重要な状態を通知します。

この節は、次の項目で構成されています。

- [36 ページの「Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー」](#)
- [40 ページの「Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのインジケータ」](#)

# Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー

表 1 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー

名前	バス	説明
/FBn/FMn/Fn/TACH	/SYS/FBn/FMn/Fn/TACH	ファンボード (0 ~ 1) ファンモジュール (0 ~ 3) ファン (0 ~ 1) の速度センサー
/FBn/FMn/PRSNT	/SYS/FBn/FMn/PRSNT	ファンボード (0 ~ 1) ファンモジュール (0 ~ 3) の存在センサー
/FBn/PRSNT	/SYS/FBn/PRSNT	ファンボード (0 ~ 1) の存在センサー
/HDDn/PRSNT	/SYS/HDDn/PRSNT	ハードディスク (0 ~ 15) の存在センサー
/MB/CMPn/T_BCORE	/SYS/MB/CMPn/T_BCORE	CMP (0 ~ 1) のコア下部温度センサー
/MB/CMPn/T_TCORE	/SYS/MB/CMPn/T_TCORE	CMP (0 ~ 1) のコア上部温度センサー
/MB/I_USBn	/SYS/MB/I_USBn	USB ポート (0 ~ 1) の電流センサー
/MB/I_VCOREL	/SYS/MB/I_VCOREL	CPU 0 コア電流しきい値センサー
/MB/I_VCORER	/SYS/MB/I_VCORER	CPU 1 コア電流しきい値センサー
/MB/MRn/V_+1V5	(アクセス不可能、内部で使用)	メモリーライザー (0 ~ 1) メモリー電圧しきい値センサー
/MB/MRn/V_+1V5	(アクセス不可能、内部で使用)	メモリーライザー (0 ~ 1) 1.5 V のしきい値センサー
/MB/MRn/V_VMEM	(アクセス不可能、内部で使用)	メモリーライザー (0 ~ 1) メモリー電圧しきい値センサー
/MB/P0/MR0/P	/SYS/MB/P0/MR0/PRSNT	CMP 0 ライザー 0 の存在センサー
/MB/P1/MR1/P	/SYS/MB/P1/MR1/PRSNT	CMP 1 ライザー 1 の存在センサー
/MB/Pn/CBUS_BTn	(アクセス不可能、内部で使用)	CPU (0 ~ 1) CPU 接続点 (0 ~ 11) の障害センサー
/MB/RSR0/XAUI0/P	(アクセス不可能、内部で使用)	ライザーボード 0 XAUI 0 の存在センサー
/MB/RSR1/XAUI1/P	(アクセス不可能、内部で使用)	ライザーボード 1 XAUI 1 の存在センサー

表 1 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー (続き)

名前	バス	説明
/MB/T_AMB	/SYS/MB/T_AMB	周囲温度しきい値センサー
/MB/T_BUS_BAR <i>n</i>	/SYS/MB/T_BUS_BAR <i>n</i>	マザーボードのバスバー (0 ~ 1) 温度
/MB/V_+12V0_MAIN	/SYS/MB/V_+12V0_MAIN	12V の主電圧しきい値センサー
/MB/V_+3V3_MAIN	/SYS/MB/V_+3V3_MAIN	3.3V の主電圧しきい値センサー
/MB/V_+3V3_STBY	/SYS/MB/V_+3V3_STBY	3.3V のスタンバイ電圧しきい値センサー
/MB/V_1V0_VDD	/SYS/MB/V_1V0_VDD	1V の主電圧しきい値センサー
/MB/V_1V2_VDD	/SYS/MB/V_1V2_VDD	1.2V の主電圧しきい値センサー
/MB/V_1V5_IO	/SYS/MB/V_1V5_IO	1.5V の I/O しきい値センサー
/MB/V_1V5_VDD	/SYS/MB/V_1V5_VDD	1.5V の主電圧しきい値センサー
/MB/V_5V0_VCC	/SYS/MB/V_5V0_VC	5V の主電圧しきい値センサー
/MB/V_VBAT	/SYS/MB/V_VBAT	バッテリー電圧しきい値センサー
/MB/V_VCOREL	/SYS/MB/V_VCOREL	CPU 0 コア電圧しきい値センサー
/MB/V_VCOREL_POK	/SYS/MB/V_VCOREL_POK	CPU 0 用の仕様範囲内コア電源センサー
/MB/V_VCORER	/SYS/MB/V_VCORER	CPU 1 コア電圧しきい値センサー
/MB/V_VCORER_POK	/SYS/MB/V_VCORER_POK	CPU 1 用の仕様範囲内コア電源センサー
/MB/V_VDDIO	/SYS/MB/V_VDDIO	電圧しきい値センサー
/MB/V_VMEML	/SYS/MB/V_VMEML	左メモリー分岐電圧しきい値センサー
/MB/V_VMEMR	/SYS/MB/V_VMEMR	右メモリー分岐電圧しきい値センサー
/MB/V_VTTL	/SYS/MB/MR <i>n</i> /V_VTTL	左メモリーライザー (0 ~ 1) の VTT 電圧
/MB/V_VTTR	/SYS/MB/MR <i>n</i> /V_VTTR	右メモリーライザー (0 ~ 1) の VTT 電圧
/MB/VMEML_POK	/SYS/MB/VMEML_POK	左メモリー分岐仕様範囲内電源センサー
/MB/VMEMR_POK	/SYS/MB/VMEMR_POK	右メモリー分岐仕様範囲内電源センサー
/P0/BR <i>n</i> /CH <i>n</i> /D <i>n</i> /PRSNT	/SYS/P0/BR <i>n</i> /CH <i>n</i> /D <i>n</i> /PRSNT	CMP 0 ライザー 0 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (2 ~ 3) の存在センサー

表 1 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー (続き)

名前	バス	説明
/P0/BRn/CHn/Dn/T	/SYS/P0/BRn/CHn/Dn/T	CMP 0 ライザー 0 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (2 ~ 3) の温度センサー
/P1/BRn/CHn/Dn/PRSNT	/SYS/P1/BRn/CHn/Dn/PRSNT	CMP 1 ライザー 1 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (2 ~ 3) の存在センサー
/P1/BRn/CHn/Dn/T	/SYS/P1/BRn/CHn/Dn/T	CMP 1 ライザー 1 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (2 ~ 3) の温度センサー
/PDB/+5V0_POK	(アクセス不可能、内部で使用)	PDB 5.0V 仕様範囲内電源センサー
/Pn/BRn/CHn/Dn/P	/SYS/Pn/BRn/CHn/Dn/PRSNT	CMP (0 ~ 1) 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (0 ~ 1) の存在センサー
/Pn/BRn/CHn/Dn/T	/SYS/Pn/BRn/CHn/Dn/T	CMP (0 ~ 1) 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (0 ~ 1) 温度センサー
/PSn/AC_POK	/SYS/PSn/AC_POK	電源装置 (0 ~ 1) の AC 電源センサー
/PSn/CUR_FAULT	/SYS/PSn/CUR_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) の電流障害センサー
/PSn/DC_POK	/SYS/PSn/DC_POK	電源装置 (0 ~ 1) の DC 電源センサー
/PSn/FAN_FAULT	/SYS/PSn/FAN_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) のファン障害センサー
/PSn/I_IN_LIMIT	/SYS/PSn/I_IN_LIMIT	電源装置 (0 ~ 1) の AC 電流制限センサー
/PSn/I_IN_MAIN	/SYS/PSn/I_IN_MAIN	電源装置 (0 ~ 1) の AC 電流センサー
/PSn/I_OUT_LIMIT	/SYS/PSn/I_OUT_LIMIT	電源装置 (0 ~ 1) の DC 電流制限センサー
/PSn/I_OUT_MAIN	/SYS/PSn/I_OUT_MAIN	電源装置 (0 ~ 1) の DC 電流制限センサー
/PSn/IN_POWER	/SYS/PSn/IN_POWER	電源装置 (0 ~ 1) の AC 電源センサー
/PSn/OUT_POWER	/SYS/PSn/OUT_POWER	電源装置 (0 ~ 1) の DC 電源センサー
/PSn/PRSNT	/SYS/PSn/PRSNT	電源装置 (0 ~ 1) の存在センサー



表 1 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー (続き)

名前	バス	説明
/PSn/TEMP_FAULT	/SYS/PSn/TEMP_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) の温度障害センサー
/PSn/V_IN_MAIN	/SYS/PSn/V_IN_MAIN	電源装置 (0 ~ 1) の AC 電圧センサー
/PSn/V_OUT_MAIN	/SYS/PSn/V_OUT_MAIN	電源装置 (0 ~ 1) の DC 電圧センサー
/PSn/VOLT_FAULT	/SYS/PSn/VOLT_FAULT	電源装置 (0 ~ 1) の電圧障害センサー
/SASBP/PRSNT	(アクセス不可能、内部で使用)	ディスクバックプレーン存在センサー
/SYS/VPS	/SYS/SYS/VPS	システム合計電力 (W 単位) センサー。
/USBBD/PRSNT	(アクセス不可能、内部で使用)	USB ボードの存在センサー
/XAUIIn/0V9_FAULT	(アクセス不可能、内部で使用)	XAUI (0-1) 0.9V の障害センサー
/XAUIIn/1V2_FAULT	(アクセス不可能、内部で使用)	XAUI (0 ~ 1) 1.2V の障害センサー
/XAUIIn/1V8_FAULT	(アクセス不可能、内部で使用)	XAUI (0 ~ 1) 1.8V の障害センサー
/XAUIIn/3V3_FAULT	(アクセス不可能、内部で使用)	XAUI (0 ~ 1) 3.3V の障害センサー
/XAUIIn/5V0_FAULT	(アクセス不可能、内部で使用)	XAUI (0 ~ 1) 5.0V の障害センサー

## 関連情報

- [40 ページの「Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのインジケータ」](#)

# Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのインジケータ

表 2 Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのインジケータ

名前	バス	説明
ACT	/SYS/ACT	システム電源稼働インジケータ
/FAN_FAULT	/SYS/FAN_FAULT	ファン障害インジケータ
/FBn/FMn/SERVICE	/SYS/FANBdn/FMn/SERVICE	ファンボード (0 ~ 1) ファンモジュール (0 ~ 3) の保守インジケータ
LOCATE	/SYS/LOCATE	位置特定インジケータ
/P0/BRn/CHn/Dn/S	/SYS/MB/CMP0/MR0/BRn/CHn/Dn/SERVICE	CMP 0 ライザー 0 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (2 ~ 3) の保守インジケータ
/P1/BRn/CHn/Dn/S	/SYS/MB/CMP1/MR1/BRn/CHn/Dn/SERVICE	CMP 1 ライザー 1 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (2 ~ 3) の保守インジケータ
/Pn/BRn/CHn/Dn/S	/SYS/MB/CMPn/BRn/CHn/Dn/SERVICE	CMP (0 ~ 1) 分岐 (0 ~ 1) チャンネル (0 ~ 1) DIMM (0 ~ 1) の保守インジケータ
/PS_FAULT	/SYS/PS_FAULT	電源装置障害インジケータ
SERVICE	/SYS/SERVICE	保守インジケータ
/SYS/HDDn/OK2RM	/SYS/HDDn/OK2RM	ハードディスク (0 ~ 15) の取り外し可能インジケータ
/SYS/HDDn/SERVICE	/SYS/HDDn/SERVICE	ハードディスク (0 ~ 7) の保守インジケータ
/TEMP_FAULT	/SYS/TEMP_FAULT	温度障害インジケータ

## 関連情報

- [36 ページの「Sun SPARC Enterprise T5140 および T5240 サーバのセンサー」](#)

# ALOM の互換性情報の検出

---

説明	リンク
ALOM CMT 互換シェルの説明	<a href="#">42 ページの「ILOM と ALOM CMT の間の大きな違い」</a> <a href="#">43 ページの「ALOM CMT 互換シェルの作成」</a> <a href="#">46 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」</a>
ALOM CMT の変数を ILOM の対応する変数と比較する表。	<a href="#">54 ページの「ALOM CMT 変数の比較」</a>
ALOM CMT 互換シェルから使用可能なイベントメッセージ。	<a href="#">55 ページの「イベントメッセージの概要」</a> <a href="#">56 ページの「イベントの重要度レベル」</a> <a href="#">57 ページの「サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ」</a> <a href="#">60 ページの「環境監視イベントメッセージ」</a> <a href="#">63 ページの「ホスト監視イベントメッセージ」</a>

---

---

## ALOM CMT 互換シェル

ILOM では、互換シェルを使用して ALOM CMT コマンド行インタフェースの一部の機能をサポートしています。ILOM と ALOM CMT には大きな違いがあります。この章では、それらの違いについて説明します。この章は、次の項目で構成されています。

- [42 ページの「ILOM と ALOM CMT の間の大きな違い」](#)
- [43 ページの「ALOM CMT 互換シェルの作成」](#)
- [46 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)

## ILOM と ALOM CMT の間の大きな違い

下位互換性のシェルは ALOM CMT の一部の機能をサポートしますが、すべての機能をサポートするわけではありません。ILOM と ALOM CMT の重要な違いの一部についてこの節で説明します。また、使用しているサーバのプロダクトノートにも記載されています。

- 42 ページの「ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加」
- 42 ページの「ネットワーク構成プロパティの変更を確定する」
- 43 ページの「シリアルポート構成プロパティの変更の確定」

### ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加

最初の ALOM CMT 環境では、ネットワーク構成変数、シリアルポート構成変数など一部の ALOM CMT 変数の値を変更すると、サービスプロセッサ (ALOM CMT では「システムコントローラ」と呼ばれていた) をリセットして変更を有効にする必要がありました。これに比べて、ILOM や ALOM CMT 互換シェルでは、サービスプロセッサをリセットする代わりに、変更した値を確定する必要があります。



---

**注意** – ILOM の場合、プロパティの値を変更してから変更を確定せずに SP をリセットすると、新しいプロパティの設定が失われます。

---

### ▼ ネットワーク構成プロパティの変更を確定する

1. 対象のネットワーク構成プロパティの値を変更します。
2. 変更を確定します。

たとえば、ALOM 互換 CLI を使用して静的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
sc> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx  
sc> setsc netsc_commit true
```

ILOM CLI を使用して同じプロパティを設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipaddress=xxx.xxx.xxx.xxx  
Set 'pendingipaddress' to 'xxx.xxx.xxx.xxx'  
-> set /SP/network commitpending=true  
Set 'commitpending' to 'true'
```

### 関連情報

- [43 ページの「シリアルポート構成プロパティの変更の確定」](#)
- [42 ページの「ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加」](#)

## ▼ シリアルポート構成プロパティの変更の確定

1. 対象のシリアルポート構成プロパティの値を変更します。
2. ALOM CMT コマンド `setsc ser_commit true` または ILOM コマンド `/SP/serial/external commitpending=true` のいずれかを使用して、変更を確定します。  
変数と対応するプロパティのリストは、[46 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#) を参照してください。

---

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
<code>netsc_commit</code>	<code>/SP/network commitpending</code>
<code>ser_commit</code>	<code>/SP/serial/external commitpending</code>

---

### 関連情報

- [42 ページの「ネットワーク構成プロパティの変更を確定する」](#)
- [42 ページの「ILOM ネットワーク構成プロパティの構成手順に対する確定手順の追加」](#)

## ▼ ALOM CMT 互換シェルの作成

デフォルトでは、サーバは ILOM シェルで操作するように設定されています。サーバの管理に ALOM CMT コマンドと類似するコマンドを使用することが望ましい場合は、ALOM 互換シェルを作成できます。

---

**注** – 以前のバージョンからのファームウェアのアップグレードを実行し、ILOM の以前のバージョンの設定を維持するオプションを選択した場合は、この節で説明しているように `admin` ユーザー名を再作成することなく、(ユーザー名 `admin` とパスワードも含めて) 以前の設定を引き続き使用できます。ILOM ファームウェアとともに供給されているユーザー名 `root` の当初のパスワードを使用すると、パスワードが出荷時のデフォルトに引き続き設定されていることが ILOM によって警告されます。

---

1. ユーザー管理 (u) の役割が割り当てられたユーザー名を使用してサービスプロセッサにログオンします。

電源を入れると、SP が起動し、ILOM ログインプロンプトが表示されます。

```
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX login: username
Password:
Waiting for daemons to initialize...
Daemons ready

Integrated Lights Out Manager

Version 3.0.x.x

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

Warning: password is set to factory default.

->
```

2. admin という名前のユーザーを作成し、admin アカウントの役割を aucro に設定してから、CLI モードを alom に設定します。

```
-> create /SP/users/admin
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/admin

-> set /SP/users/admin role=aucro
Set 'role' to 'aucro'

->set /SP/users/admin cli_mode=alom
Set 'cli_mode' to 'alom'
```

---

注 – この例のアスタリスクで示された部分は、実際にパスワードを入力する際には表示されません。

---

create および set コマンドを 1 行にまとめて、次のように指定することもできます。

```
-> create /SP/users/admin role=aucro cli_mode=alom
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/admin
```

3. admin アカウントの作成が完了したら、root アカウントをログアウトします。

```
-> exit
```

4. ILOM ログインプロンプトから ALOM CLI シェル (sc> プロンプトで示される) にログインします。

```
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX login: admin
Password:
Waiting for daemons to initialize...

Daemons ready

Integrated Lights Out Manager

Version 3.0.x.x

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.

sc>
```

ALOM CMT 互換シェルでは、一部例外はありますが、ALOM CMT コマンドと類似するコマンドを使用できます。ALOM CMT 互換シェルは ILOM インタフェースであることを覚えてください。ILOM CLI と ALOM CMT 互換 CLI の比較については、[46 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)で説明します。

## 関連情報

- [46 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)

## ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較

次の表に、ALOM CMT のコマンドセットとデフォルトの ILOM CLI コマンドセットにおける、コマンドごとの比較を示します。次の表には、サポートされている ALOM CMT コマンドオプションのみが記載されています。ALOM CMT コマンド行引数には対応する ILOM プロパティが存在しないものがありますが、それらの ALOM CMT 引数は省略されています。ALOM 互換シェルのコマンドセットでは、ALOM CMT でサポートされているコマンドおよび引数と非常によく似た同等のコマンドおよび引数が提供されています。

---

注 – ALOM CMT コマンドで情報を表示すると、デフォルトでは、その出力が簡潔形式に制限されていますが、コマンドに `-v` フラグを指定することによってより詳細な出力が提供されます。ILOM の `show` コマンドには、簡潔出力形式はありません。これらのコマンドでは、常に詳細出力が提供されます。

---

表 1 ALOM CMT シェル構成コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>password</code>	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。	<code>set /SP/users/username password</code>
<code>restartssh</code>	<code>ssh-keygen</code> コマンドによって生成された新しいホスト鍵が再ロードされるように、SSH サーバを再起動します。	<code>set /SP/services/ssh restart_sshd_action=true</code>
<code>setdate [[mmd]HHMM  mddHHMM[cc]yy][.SS]</code>	ALOM CMT の日付および時刻を設定します。	<code>set /SP/clock datetime=value</code>
<code>setdefaults [-a]</code>	すべての ALOM CMT 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-a オプションを指定すると、ユーザー情報がデフォルト (1 つの admin アカウトのみ) にリセットされます。	<code>set /SP reset_to_defaults=[none factory all]</code>
<code>setkeyswitch [normal stby diag locked]</code>	仮想キースイッチの状態を設定します。仮想キースイッチをスタンバイ (stby) に設定すると、サーバの電源が切断されます。ホストサーバの電源を切る前に、ALOM CMT によって電源切断の確認が求められます。	<code>set /SYS keyswitch_state=value</code>
<code>setsc [param] [value]</code>	指定した ALOM CMT パラメータに割り当てる値を設定します。	<code>set target property=value</code>



表 1 ALOM CMT シェル構成コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
setupsc	対話型の構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ALOM CMT 構成変数が設定されます。	ILOM での対応なし
showplatform [-v]	ホストシステムのハードウェア構成に関する情報と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかを表示します。-v オプションを指定すると、表示されているコンポーネントに関する詳細情報が表示されます。	show /HOST
showfru	ホストサーバ内の現場交換可能ユニット (Field Replaceable Unit, FRU) に関する情報を表示します。	静的 FRU 情報を表示するには、ILOM show [FRU] コマンドを使用します (動的 FRU 情報の場合は、ALOM CMT showfru コマンドを使用します)。
showusers -g lines	ALOM CMT に現在ログインしているユーザーのリストを表示します。このコマンドの表示書式は、UNIX コマンド who の表示書式と類似しています。-g オプションを指定すると、lines で指定した行数を表示するたびに表示を一時停止します。	show -level all -o table /SP/sessions  -g オプションについては、ILOM での対応なし
showhost version	ホスト側のコンポーネントのバージョン情報を表示します。version オプションを指定すると、オプションを指定しない場合の showhost コマンドと同じ情報が表示されます。	show /HOST
showkeyswitch	仮想キースイッチの状態を表示します。	show /SYS keyswitch_state
showsc [param]	現在の非揮発性のランダムアクセスメモリー (NVRAM) の構成パラメータを表示します。	show target property
showdate	ALOM CMT の日付を表示します。ALOM CMT の時刻は、現地時刻ではなく協定世界時 (UTC) で表現されます。Solaris OS と ALOM CMT の時刻は同期化されません。	show /SP/clock datetime

表 1 ALOM CMT シェル構成コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
ssh-keygen -l	Secure Shell (SSH) のホスト鍵を生成し、ホスト鍵フィンガープリントを SC に表示します。	show /SP/services/ssh/keys rsa dsa
ssh-keygen -r		set /SP/services/ssh generate_new_key_action=true
ssh-keygen -t {rsa dsa}		set /SP/services/ssh generate_new_key_type={rsa dsa}
usershow [username]	すべてのユーザーのアカウントとアクセス権レベル、およびパスワード割り当ての有無を示すリストを表示します。	show /SP/users
useradd username	ユーザーアカウントを ALOM CMT に追加します。	create /SP/users/username
userdel [-y] username	ALOM CMT からユーザーアカウントを削除します。 -y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	delete [-script] /SP/users/username
userpassword [username]	ユーザーのパスワードを設定または変更します。	set /SP/users/username password
userperm [username] [c] [u] [a] [r] [o] [s]	ユーザーアカウントのアクセス権レベルを設定します。	set /SP/users/username role=permissions [a u c r o s]

表 2 ALOM CMT シェルのログコマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<pre>showlogs -p [r p] [-b lines -e lines -v] [-g lines]</pre>	<p>イベントログに記録されたすべてのイベントの履歴、またはイベントログに記録されたメジャーイベントおよびクリティカルイベントを表示します。</p> <p>-p オプションを指定すると、イベントログのメジャーイベントおよびクリティカルイベントのエントリのみ (r) を表示するか、イベントログのすべてのエントリ (p) を表示するかを選択できます。</p> <p>-g lines は、一時停止するまでに表示する行数を指定します。</p> <p>-e lines を指定すると、バッファの最後から n 行が表示されます。</p> <p>-b lines を指定すると、バッファの先頭から n 行が表示されます。</p> <p>-v を指定すると、バッファ全体が表示されます。</p>	<pre>show /SP/logs/event/list</pre> <p>ILOM での対応なし</p>
<pre>consolehistory [-b lines -e lines -v] [-g lines] [boot run]</pre>	<p>ホストサーバコンソールの出力バッファを表示します。</p> <p>-g lines は、一時停止するまでに表示する行数を指定します。</p> <p>-e lines を指定すると、バッファの最後から n 行が表示されます。</p> <p>-b lines を指定すると、バッファの先頭から n 行が表示されます。</p> <p>-v を指定すると、バッファ全体が表示されます。</p>	<pre>set /SP/console/history property=value [set /SP/console/history property=value] [set /SP/console/history property=value] show /SP/console/history</pre> <p>property には、次の値を指定できます。</p> <p>line_count=[lines] のデフォルト値は "" (なし) で、バッファから取得する全体の行数には制限がないことを意味します。</p> <p>pause_count=[count] のデフォルト値は "" (なし) で、一時停止のたびに表示される行数には制限がないことを意味します。</p> <p>start_from=[end beginning] のデフォルト値は end です。</p>

表 3 ALOM CMT シェルの状態および制御用コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
showenvironment	ホストサーバの環境の状態を表示します。この情報には、システムの温度、電源装置の状態、フロントパネルの LED の状態、ハードディスクドライブの状態、ファンの状態、電圧と電流のセンサーの状態があります。	show -o table -level all /SYS
showpower [-v]	ホストサーバの電源メトリックスを表示します。	show /SP/powermgmt
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。-v オプションを指定すると、DHCP サーバの情報などのネットワークに関する追加情報が表示されます。	show /SP/network
console [-f]	ホストシステムのコンソールに接続します。 -f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。 ILOM で -force オプションを指定すると、コンソールが終了し、新しいコンソールを起動できるようになります。	start [-force] /SP/console
break [-D] [-c]	ホストサーバ上で動作している Solaris OS ソフトウェアを中断し、Solaris ソフトウェアが起動されたモードに応じて、OpenBoot PROM または kmdb に制御を移します。	set /HOST send_break_action=[break dumpcore]  [start /SP/console]
bootmode [normal] [reset_nvram] [config=configname] [bootscript = string]	ホストサーバの OpenBoot PROM ファームウェアの起動方法を制御します。	set /HOST/bootmode property=value (ここで、property は state、config、または script です)

表 3 ALOM CMT シェルの状態および制御用コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>flashupdate -s IPAddr -f pathname [-v] [-y] [-c]</code>	<p>ホストファームウェアおよび ALOM CMT ファームウェアの両方のシステムファームウェアをダウンロードおよび更新します。ILOM では、<code>ipaddr</code> は TFTP サーバである必要があります。DHCP を使用している場合、<code>ipaddr</code> は TFTP ホストの名前に置き換えることができます。</p> <p>-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。</p> <p>-c オプションを使用すると、構成情報を維持せずに、システムファームウェアを更新できます。atlon。</p> <p>構成情報を削除したあと (-c オプションを使用するか、<code>set /SP reset_to_defaults=factory</code> コマンドを使用)、ILOM 3.0 を含むシステムファームウェアを、ILOM 2.0 を含むファームウェアで置き換えるときに、-c オプションを使用する必要があります。-c オプションを省略する場合は、<code>flashupdate</code> コマンドは、維持されている構成情報の復元を試みますが、構成情報は存在していないので、ファームウェアのダウングレードが停止する結果になります。</p>	<p><code>load -source tftp://ipaddr/pathname</code></p>
<code>reset [-y] [-f] [-c]</code>	<p>ホストサーバのハードウェアリセットを生成します。</p> <p>-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。</p> <p>-f オプションを指定すると、ハードウェアのリセットが強制的に行われます。</p> <p>-c オプションを指定すると、コンソールが起動されます。</p>	<p><code>reset [-script] [-force] /SYS [start /SP/console]</code></p>
<code>reset -d [-n] [-y] [-f] [-c]</code>	<p>-d オプションを指定すると、コンソールドメインが正常にリセットされます。</p> <p>-n オプションを指定すると、<code>auto-boot</code> 変数が <code>disable</code> に設定されます。これは、1 回のリセットの間保持されます。</p> <p>-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。</p> <p>-f オプションを指定すると、ハードウェアのリセットが強制的に行われます。</p> <p>-c オプションを指定すると、コンソールが起動されます。</p>	<p><code>[set /HOST/domain/control auto-boot=disable]</code></p> <p><code>reset [-script] [-force] /HOST/domain/control [start /SP/console]</code></p>

表 3 ALOM CMT シェルの状態および制御用コマンド (続き)

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
powercycle [-y] [-f]	poweroff のあとに poweron を実行します。-f オプションを指定すると、ただちに強制的に poweroff が実行されます。指定しない場合は、正常な停止が試行されます。	stop [-script] [-force] /SYS start [-script] [-force] /SYS
poweroff [-y][-f]	ホストサーバの主電源を切ります。-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。ALOM CMT は、正常なサーバの停止を試行します。-f オプションを指定すると、ただちに強制的に停止されます。	stop [-script] [-force] /SYS
poweron	ホストサーバまたは FRU の主電源を入れます。	start /SYS
setlocator [on/off]	サーバのロケータ LED の点灯と消灯を切り替えます。	set /SYS/LOCATE value= <i>value</i>
showfaults [-v]	現在検出されているシステム障害を表示します。	show faulty
clearfault <i>UUID</i>	手動でシステム障害を修復します。ILOM の show faulty コマンドを実行して障害コンポーネントを識別します。	set /SYS/component clear_fault_action=true
showlocator	ロケータ LED の現在の状態が on または off のどちらであるかを表示します。	show /SYS/LOCATE

表 4 ALOM CMT シェル FRU コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
setfru -c <i>data</i>	-c オプションを使用すると、システムのすべての FRU にインベントリコードなどの情報を格納できます。	set /SYS customer_frudata= <i>data</i>
showfru -g lines [-s -d] [ <i>FRU</i> ]	ホストサーバ内の FRU に関する情報を表示します。	show [ <i>FRU</i> ]
removefru [-y] [ <i>FRU</i> ]	電源装置などの FRU を取り外す準備をします。-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	set /SYS/PS0 prepare_to_remove_action=true

表 5 ALOM CMT の自動システム回復 (Automatic System Recovery, ASR) コマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>enablecomponent component</code>	<code>disablecomponent</code> コマンドで使用不可にしたコンポーネントをふたたび使用可能にします。	<code>set /SYS/component component_state=enabled</code>
<code>disablecomponent component</code>	コンポーネントを使用不可にします。	<code>set /SYS/component component_state=disabled</code>
<code>showcomponent component</code>	システムコンポーネントとそのテスト状態を表示します。	<code>show /SYS/component component_state</code>
<code>clearasrdb</code>	使用不可になっているコンポーネントのリストからすべてのエントリを削除します。	ILOM での対応なし

表 6 ALOM CMT シェルのその他のコマンド

ALOM CMT コマンド	概要	対応する ILOM コマンド
<code>help [command]</code>	すべての ALOM CMT コマンドのリスト、およびその構文と機能の概要を表示します。オプションとしてコマンド名を指定すると、そのコマンドのヘルプを表示できます。	<code>help</code>
<code>resetsc [-y]</code>	ALOM CMT を再起動します。-y オプションを指定すると、確認メッセージは表示されません。	<code>reset [-script] /SP</code>
<code>userclimode username shelltype</code>	シェルの種類を <code>shelltype</code> に設定しますが、ここで <code>shelltype</code> は <code>default</code> または <code>alom</code> です。	<code>set /SP/users/username cli_mode=shelltype</code>
<code>logout</code>	ALOM CMT シェルのセッションからログアウトします。	<code>exit</code>

### 関連情報

- [43 ページの「ALOM CMT 互換シェルの作成」](#)
- [54 ページの「ALOM CMT 変数の比較」](#)
- [55 ページの「ALOM 互換シェルから使用可能なイベントメッセージ」](#)

# ALOM CMT 変数の比較

表 7 ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
diag_level	/HOST/diag level
diag_mode	/HOST/diag mode
diag_trigger	/HOST/diag trigger
diag_verbosity	/HOST/diag verbosity
if_connection	/SP/services/ssh state
if_emailalerts	/SP/clients/smtp state
if_network	/SP/network state
mgt_mailalert	/SP/alertmgmt/rules
mgt_mailhost	/SP/clients/smtp address
netsc_dhcp	/SP/network pendingipdiscovery
netsc_commit	/SP/network commitpending
netsc_enetaddr	/SP/network macaddress
netsc_ipaddr	/SP/network pendingipaddress
netsc_ipgateway	/SP/network pendingipgateway
netsc_ipnetmask	/SP/network pendingipnetmask
sc_backupuserdata	/SP/policy BACKUP_USER_DATA
sc_clieventlevel	該当なし
sc_cliprompt	該当なし
sc_clitimeout	該当なし
sc_clipasswdecho	該当なし
sc_customerinfo	/SP system_identifier
sc_escapechars	/SP/console escapechars
sc_powerondelay	/SP/policy HOST_POWER_ON_DELAY
sc_powerstatememory	/SP/policy HOST_LAST_POWER_STATE
ser_baudrate	/SP/serial/external pendingspeed
sys_autorestart	/SP autorestart
sys_autorunonerror	/SP autorunonerror



表 7 ALOM CMT 変数と対応する ILOM プロパティ (続き)

ALOM CMT 変数	対応する ILOM プロパティ
sys_boottimeout	/HOST boottimeout
sys_bootrestart	/HOST bootrestart
sys_bootfailrecovery	/HOST bootfailrecovery
sys_enetaddr	/HOST macaddress

### 関連情報

- [46 ページの「ILOM コマンドと ALOM CMT コマンドの比較」](#)
- [43 ページの「ALOM CMT 互換シェルの作成」](#)
- [55 ページの「ALOM 互換シェルから使用可能なイベントメッセージ」](#)

## ALOM 互換シェルから使用可能なイベントメッセージ

この章では、イベントメッセージに関する情報を示します。この付録は、次の節で構成されています。

- [55 ページの「イベントメッセージの概要」](#)
- [56 ページの「イベントの重要度レベル」](#)
- [57 ページの「サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ」](#)
- [60 ページの「環境監視イベントメッセージ」](#)
- [63 ページの「ホスト監視イベントメッセージ」](#)

### イベントメッセージの概要

サービスプロセッサ (ALOM CMT 内では「SC」または「システムコントローラ」とも呼ぶ) 上のファームウェアは、いくつかの宛先にイベントメッセージを送信します。

- メッセージは、`sc_clieventlevel` 変数の設定に基づいて、ログインしているすべてのユーザーに送信されます。
- メッセージは、イベントログに記録されます。記録されたメッセージは、ALOM 互換シェルの `showlogs` コマンドを使用して参照します。

- イベントログに記録されたメッセージは、イベントの重要度に従って識別されます。イベントの重要度がメジャーまたはクリティカルである場合、ALOM 互換シェルの `showlogs -p r` コマンドを使用してそれらのメッセージを表示できます。イベントログ内のすべてのメッセージを参照するには、ALOM 互換シェルの `showlogs -p p` コマンドを使用します。
- メッセージは、`mgt_mailalert` 変数の設定に基づいて、電子メールメッセージとして送信されます。個々の電子メールアドレスは、さまざまな重要度のメッセージを受信するように構成できます。
- イベントが障害を示している場合は、ALOM 互換シェルの `showfaults` コマンドの出力にそのイベントメッセージが表示されます。
- メッセージは、`sys_eventlevel` 変数の設定に基づいて、管理対象システムのオペレーティングシステムに送信され、Solaris の `syslog` 機能に記録されます。すべてのバージョンの Solaris オペレーティングシステムで、この機能がサポートされるとはかぎりません。

## 関連情報

- [56 ページの「イベントの重要度レベル」](#)
- [57 ページの「サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ」](#)
- [60 ページの「環境監視イベントメッセージ」](#)
- [63 ページの「ホスト監視イベントメッセージ」](#)

## イベントの重要度レベル

各イベントには、重要度レベルと対応する数値が割り当てられています。

- クリティカル (1)
- メジャー (2)
- マイナー (3)

ALOM 互換シェルの構成パラメータは、重要度レベルを使用して、表示するイベントメッセージを判断します。

## 関連情報

- [55 ページの「イベントメッセージの概要」](#)
- [57 ページの「サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ」](#)
- [60 ページの「環境監視イベントメッセージ」](#)
- [63 ページの「ホスト監視イベントメッセージ」](#)

# サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ

次の表に、サービスプロセッサ (システムコントローラ) の使用状況イベントメッセージを示します。

表 8 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Host has been powered off	ユーザーが poweroff コマンドを入力した場合などで、SC がホストの電源切断を要求すると常に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host has been powered off	ユーザーが poweroff -f コマンドを入力した場合などで、SC がホストの即時電源切断を要求すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host has been powered off	ホストの電源が切断されると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。また、ホストが自身をリセットした場合にも、通常、このイベントが送信されます。
メジャー	Host has been powered on	sc_powerstatememory か、ユーザーによる poweron コマンドの入力のいずれかにより、SC がホストの電源投入を要求すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
クリティカル	Host has been reset	ユーザーによる reset コマンドの入力などで、SC がホストのリセットを要求すると、ALOM 互換シェルはこれらのメッセージのいずれかを送信します。
クリティカル	Host has been powered off	
クリティカル	Host has been powered on	
クリティカル	Host System has Reset.	ホストがリセットされたことを SC が検出すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。これらのシステムでは、リセットが powercycle として実装されているため、このメッセージの直後に Host has been powered off イベントメッセージが続きます。
マイナー	"root : Set : object = /clock/datetime : value = "datetime": success	SC の日付または時刻を変更するために、ユーザーが setdate コマンドを入力すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
メジャー	Upgrade succeeded	flashupdate コマンドの処理を行なったあとに SC ファームウェアが再読み込みされると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。

表 8 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
マイナー	"root : Set : object = /HOST/bootmode/state: value = "bootmode-value": success	ユーザーが bootmode normal コマンドを使用して、起動モードを normal に変更すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
マイナー	"root : Set : object = /HOST/bootmode/state: value = "reset_nvram": success	ユーザーが bootmode コマンドを使用して起動モードを reset_nvram に変更すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。
マイナー	"root : Set : object = /HOST/bootmode/script: value = "text": success	ユーザーが起動モードを boot script に変更すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。boot script = "text" は、ユーザーによって指定された boot script のテキストです。
マイナー	Keyswitch position has been changed to <i>keyswitch_position</i> .	ユーザーが setkeyswitch コマンドを使用してキースイッチの位置を変更すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <i>keyswitch_position</i> は新しいキースイッチの位置です。
マイナー	"user" : open session : object = /session/type: value = www/shell: success	ユーザーがログインすると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <i>user</i> はログインしたユーザーの名前です。
マイナー	"user" : close session : object = /session/type: value = www/shell: success	ユーザーがログアウトすると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <i>user</i> はログアウトしたユーザーの名前です。
マイナー	"root : Set : object = /HOST/send_break_action: value = dumpcore : success	ALOM 互換シェルユーザーが、break -D コマンドを入力して、ホストにコアダンプ要求を送信すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。

表 8 システムコントローラの使用状況イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Host Watchdog timeout.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、 <code>sys_autorestart</code> 変数が <code>none</code> に設定されていると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。SC が、修正措置を実行することはありません。
クリティカル	SP Request to Dump core Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、 <code>sys_autorestart</code> 変数が <code>dumpcore</code> に設定されていると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。SC は、エラーの状態情報を取得するために、ホストのコアダンプの実行を試みます。すべてのバージョンの OS で、コアダンプ機能がサポートされるとはかぎりません。
クリティカル	SP Request to Reset Host due to Watchdog.	ホストのウォッチドッグがタイムアウトし、 <code>sys_autorestart</code> 変数が <code>reset</code> に設定されていると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。その後、SC はホストのリセットを試みます。

#### 関連情報

- [56 ページの「イベントの重要度レベル」](#)
- [55 ページの「イベントメッセージの概要」](#)
- [60 ページの「環境監視イベントメッセージ」](#)
- [63 ページの「ホスト監視イベントメッセージ」](#)

## 環境監視イベントメッセージ

次の表に、サービスプロセッサ (システムコントローラ) の環境監視イベントメッセージを示します。

表 9 環境監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SP detected fault at time <i>time</i> . Chassis cover removed.	シャーシカバーが取り外されている場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。プラットフォームハードウェアは、予防措置として、管理対象システムの電源をただちに切ります。シャーシカバーが取り外されている間、poweron コマンドが使用されないように、このメッセージと同時に、イベントメッセージ System poweron is disabled が発生するはずです。
メジャー	System poweron is disabled.	ユーザーの poweron コマンド、またはフロントパネルの電源ボタンのいずれかによるシステムの電源投入を SC が拒否すると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。メッセージ Chassis cover removed で示されるイベントなど、これと同時に発生するイベントによって、SC の電源投入が使用不可になります。そのほかに、デバイス障害またはファンの冷却の不足などが考えられます。
メジャー	System poweron is enabled.	前述の System poweron is disabled メッセージによって示される、電源投入が使用不可になったことの原因である状況が修正されると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。たとえば、シャーシカバーを取り付け直した場合、またはシステムの冷却に必要な十分なファンを取り付けた場合などです。
メジャー	SP detected fault at time <i>time</i> "fault_type 'fault' at location asserted"	故障または障害が検出されると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。障害は優先順位が低い方の状態で、システムが縮退モードで動作していることを示しています。fault_type は、温度、電圧、電流、電源など、発生した障害のタイプです。location は、エラー状況になったデバイスの場所と名前です。デバイスの場所と名前は、ALOM 互換シェルの showenvironment コマンドの出力と一致します。この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。

表 9 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
マイナー	SP detected fault cleared at <i>time</i> time current fault at <i>device</i> asserted.	以前の障害または故障が回復または修復されたことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。time および device フィールドは、障害または故障に関する以前のイベントで示された値と同じです。
メジャー	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low warning threshold.	アナログ測定センサーが指定されたしきい値を超えた場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 メッセージには、超過したしきい値の種類が含まれています。
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low critical shutdown threshold.	<i>Device_type</i> は障害が発生したデバイスのタイプで、VOLTAGE_SENSOR、TEMP_SENSOR などです。 <i>location</i> は、エラー状況になったデバイスの場所と名前です。デバイスの場所と名前は、ALOM 互換シェルの showenvironment コマンドの出力と一致します。
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded low nonrecoverable shutdown threshold	
メジャー	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high warning hreshold	TEMP_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、室内の温度、サーバに出入りする通気の遮断など、サーバの外側で問題が発生していることを示します。
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high soft shutdown threshold	VOLTAGE_SENSOR イベントの場合、このメッセージは、プラットフォームハードウェア、または場合によっては取り付けられているアドオンカードで問題が発生していることを示します。
クリティカル	<i>Device_type</i> at <i>location</i> has exceeded high hard shutdown threshold	これらの障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。
マイナー	<i>Device_type</i> at <i>location</i> is within normal range.	アナログ測定センサーが、現在は、警告または障害となるしきい値を超えていない場合、ALOM 互換シェルにより、このメッセージが送信されます。このメッセージは、センサーの読み取り値が故障パラメータの境界範囲内まで十分に回復した場合に送信されます。このメッセージは、ALOM 互換シェルの showenvironment コマンドの現在の出力と一致しない場合があります。

表 9 環境監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	Critical temperature value: host should be shut down	システムの冷却の維持に必要なファンが十分に動作していないために、SC が停止を開始したことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。システムの冷却を維持するために必要なファンの数は、プラットフォームによって異なります。詳細は、使用しているプラットフォームのドキュメントを参照してください。
クリティカル	Host system failed to power off.	SC がシステムの電源を切ることができないことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。このメッセージは、プラットフォームハードウェアまたは SC ハードウェアのいずれかに問題があることを示しています。プラットフォームハードウェアの損傷を防ぐため、システムのプラグを手で外してください。この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。
メジャー	FRU_type at location has been removed.	FRU の取り外しまたは挿入を示す場合に、ALOM 互換シェルはこれらのメッセージを送信します。フィールド FRU_type は、SYS_FAN、APSU、HDD などの FRU のタイプを示します。フィールド location は、showenvironment コマンドの出力に表示されるものと同じ、FRU の場所と名前を示します。
マイナー	FRU_type at location has been inserted.	
メジャー	Input power unavailable for PSU at location.	電源装置に入力電力が供給されていないことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。このメッセージは、通常、電源装置が AC 電源に接続されていないことを示しています。電力が供給されているコンセントに電源コードが接続されている場合、このメッセージは電源装置自体に問題があることを示しています。この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの showfaults コマンドの出力に表示されます。

## 関連情報

- [56 ページの「イベントの重要度レベル」](#)
- [57 ページの「サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ」](#)
- [55 ページの「イベントメッセージの概要」](#)
- [63 ページの「ホスト監視イベントメッセージ」](#)



## ホスト監視イベントメッセージ

次の表に、サービスプロセッサ (システムコントローラ) のホスト監視イベントメッセージを示します。

表 10 ホスト監視イベントメッセージ

重要度	メッセージ	説明
クリティカル	SP detected fault at time <i>time component</i> disabled	POST での障害の検出によって自動的にコンポーネントが使用不可になった場合、またはユーザーの <code>disablecomponent</code> コマンドの入力によってコンポーネントが使用不可になった場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <i>component</i> は使用不可になったコンポーネントで、プラットフォームの <code>showcomponent</code> コマンドで表示されます。  この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。
マイナー	SP detected fault cleared at <i>component</i> reenabled	コンポーネントが使用可能になると、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。コンポーネントは、ユーザーが <code>enablecomponent</code> コマンドを入力するか、またはコンポーネント自体が DIMM などの FRU で、その FRU を交換することによって使用可能にできます。 <i>component</i> は、プラットフォームの <code>showcomponent</code> コマンドの出力に表示される、コンポーネントの名前です。
メジャー	Host detected fault, MSGID: SUNW-MSG-ID	Solaris PSH ソフトウェアが障害を診断する場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。障害の SUNW-MSG-ID は ASCII 識別子であり、( <a href="http://www.sun.com/msg">http://www.sun.com/msg</a> ) に入力すると、障害の性質および修復の手順に関する詳細情報が表示されます。  この障害イベントメッセージは、ALOM 互換シェルの <code>showfaults</code> コマンドの出力に表示されます。

表 10 ホスト監視イベントメッセージ (続き)

重要度	メッセージ	説明
メジャー	<code>Location has been replaced; faults cleared.</code>	ホストで検出された障害を含む FRU を交換したあとで、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。 <code>Location</code> は、交換された FRU の場所と名前です。SC の起動時、または FRU を交換してシャーシカバーを閉じたあとに、このイベントを受信する可能性があります。
メジャー	<code>Existing faults detected in FRU_PROM at location.</code>	新しい FRU で、その FRU PROM に以前の障害が記録されていることを SC が検出したことを示す場合に、ALOM 互換シェルはこのメッセージを送信します。FRU または SC カードのいずれかを、あるシステムから別のシステムに移動させた場合に、このイベントが発生する可能性があります。 <code>location</code> は、MB/SEEPROM など、交換した FRU の SEEPROM の名前です。 最新の既存の障害は、FRU PROM から <code>showfaults</code> リストにインポートされます。 <code>showfaults</code> リストの項目は、インポートされた障害で、このメッセージではありません。

## 関連情報

- [56 ページの「イベントの重要度レベル」](#)
- [57 ページの「サービスプロセッサの使用状況イベントメッセージ」](#)
- [60 ページの「環境監視イベントメッセージ」](#)
- [55 ページの「イベントメッセージの概要」](#)

# 索引

---

## 記号

/HOST autorestart プロパティ, 13  
/HOST autorunonerror プロパティ, 12  
/HOST macaddress プロパティ, 11  
/HOST send\_break\_action プロパティ, 18  
/HOST status プロパティ, 19  
/HOST/bootmode config プロパティ, 7  
/HOST/bootmode expires プロパティ, 9  
/HOST/bootmode script プロパティ, 9  
/HOST/bootmode state プロパティ, 8  
/SP customer\_fru\_data プロパティ, 22  
/SP system\_identifier プロパティ, 22  
/SP/console escapechars プロパティ, 25  
/SP/policy BACKUP\_USER\_DATA プロパティ, 26  
/SP/policy HOST\_AUTO\_POWER\_ON プロパティ, 27  
/SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE プロパティ, 26  
/SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY プロパティ, 28  
/SP/serial/external commitpending プロパティ, 43  
/SYS keyswitch\_state プロパティ, 33

## A

ALOM CMT 互換シェル, 43  
    下位互換性の制限, 42  
    コマンド, ILOM コマンドとの比較, 46  
    作成, 43

ALOM CMT コマンド, ILOM コマンドとの比較, 46

ALOM CMT 変数, 54  
    確定, 43

## ALOM CMT

    イベントの重要度レベル, 56  
    イベントメッセージ, 55  
    イベントメッセージの概要, 55  
    環境監視イベントメッセージ, 60  
    使用状況イベントメッセージ, 57  
    ホスト監視イベントメッセージ, 63

## F

FRU データ, 変更, 22

## I

### ILOM

    概要, 1  
    サポートされていない機能, 3  
    プラットフォーム固有の機能, 2

### ILOM コマンド

    ALOM CMT 互換シェルのコマンドとの比較, 46

ILOM コマンドと ALOM CMT コマンド, 46

ILOM の確定手順, 42

### ILOM プロパティ

    /SP customer\_fru\_data, 22  
    /SP system\_identifier, 22  
    /SP/console escapechars, 25  
    /SP/policy BACKUP\_USER\_DATA, 26  
    /SP/policy HOST\_AUTO\_POWER\_ON, 27  
    /SP/policy HOST\_LAST\_POWER\_STATE, 26  
    /SP/policy HOST\_POWER\_ON\_DELAY, 28

- /HOST autorestart, 13
- /HOST autorunonerror, 12
- /HOST macaddress, 11
- /HOST send\_break\_action, 18
- /HOST status, 19
- /HOST/bootmode config, 7
- /HOST/bootmode expires, 9
- /HOST/bootmode script, 9
- /HOST/bootmode state, 8
- /SP/serial/external commitpending, 43
- /SYS keyswitch\_state, 33

確定, 43

IPMI インジケータ, 40

IPMI センサー, 36

## M

MAC アドレス, ホストの表示, 11

## O

OpenBoot

- バージョンの表示, 12

OpenBoot のバージョン, 表示

- CLI を使用, 12

- Web インタフェースを使用, 16

## P

Physical Presence スイッチ, 2

POST

- バージョンの表示, 12

POST のバージョン, 表示

- Web インタフェースを使用, 16

## う

ウォッチドッグタイマー, 13

## き

キースイッチ

- Web インタフェースでの制御, 34

- ホストの動作の指定, 33

起動モード

- LDoms, 7

- Web インタフェースを使用した管理, 10

- 構成の管理, 7

- スクリプトの管理, 9

- 有効期限, 9

- リセット時の管理, 8

- リセットの管理, 8

- ホストの管理, 7

## こ

顧客の識別情報, Web インタフェースで変更, 23

コンソールのエスケープ文字, 変更, 25

コンソール履歴, 表示, 24

## さ

サーバ, プラットフォーム情報, 19

## し

システム識別情報, 変更, 22

自動再起動

- 起動タイムアウト時の動作の指定, 14

- 起動タイムアウトの間隔の設定, 14

- 再起動に失敗した場合の動作の指定, 15

- 再起動の最大再試行回数の指定, 15

シリアルポート構成プロパティ, 変更の確定, 43

## す

スイッチ, Physical Presence, 2

## た

タイマー, ウォッチドッグ, 13

## ね

ネットワークアクセス

- 無効化または再有効化, 30

ネットワーク構成プロパティ, 確定, 43

ネットワーク構成プロパティ, 変更の確定, 42

ネットワーク構成プロパティの確定, 43

## は

バックアップ, ユーザーデータ, 26

## ふ

プラットフォーム, 表示, 19

プロパティ

- システムユーザー, 18

- バックアップデータ, 26

## ほ

### ホスト

reset, 6

Web インタフェースでの制御情報, 16

状態情報の表示, 19

ブレークの送信または強制的なコアダンプ, 18

ホストが動作を停止したときの動作の指定, 13

リセット時の動作の指定, 12

### ホスト電源状態

Web インタフェースでの管理, 28

再起動時の指定, 27

再起動時の復元, 26

電源投入の遅延の管理, 28

ホストの状態, 表示

CLI を使用, 19

## ゆ

ユーザーデータベース, バックアップ, 26

## り

リモートコントロールの設定

CLI での変更, 6

Web インタフェースでの変更, 10

